

# Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定(変額保険用) 月次運用報告書(2008年2月)

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。  
2008年2月における特別勘定(変額保険用)の運用状況をご報告致します。  
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.axa.co.jp/life/>

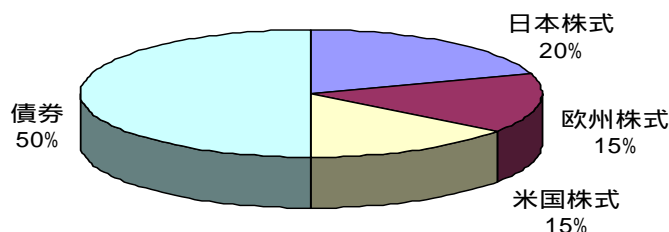
## 特別勘定の運用方針

日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。特別勘定の運用は、各投資信託(ファンド)の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社ファンド・マネジメント部が行います。特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社(運用協力会社)の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

## 目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

(グローバルミックスの資産配分比率)



\* 上記は設定当初の資産配分比率です。  
\* 資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

## 運用協力会社(ファンドの運用会社)のご紹介

### アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

- ・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
- ・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等を行っていますので、合計等と合致しないことがあります。
- ・アクサ生命保険株式会社 ファンド・マネジメント部は、2008年4月1日付をもって、投資性プロフィットセンター ファンドマネジメント・チームに名称変更する予定です。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 運用環境について(2008年2月)

## 【日本株式市場】

日本株式市場の主要株価指数の当期末終値は、日経平均は+0.08%の13,603円02銭、TOPIXは 1.64%の1,324.28ポイントとなりました。月初は、堅調にスタートしたものの、大手格付け機関によるモノライン(金融保証会社)の格下げ懸念から下落し、2月12日には日経平均で安値12,923円42銭をつけました。その後、2月14日に発表された10-12月期GDPは年率3.8%と事前予想を上回り、株価が経済実態に対し割安との見方が広がったことで日本株式市場は上昇基調に転じました。また、2月27日には日経平均14,105円47銭と一時14,000円台を回復しました。しかし、月末にかけて期待に応えるモノライン(金融保証会社)救済策が実施されなかったことや米国経済後退の見通しが強まり、円高が進行したことなどにより、再び下落し月初とほぼ同水準に戻しました。一方、東証2部および日経ジャスダック平均はそれぞれ+1.08%と 0.12%となっており、TOPIXに比べ比較的底堅い動きとなりました。

東証33業種の月間上昇率上位業種は鉱業(+16.35%)、卸売業(+9.85%)、海運業(+9.54%)、非鉄金属(+8.85%)、証券業(+4.77%)となり原油や商品市況の高騰を背景に資源関連業種が上昇しました。一方、下位業種は不動産業(12.04%)、建設業(8.18%)、銀行業(7.53%)、ゴム製品(5.37%)、水産・農林業(5.26%)となり、不動産関連の下落が目立ちました。

## 【米国株式市場】

米国株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、S&P500種株価指数は 3.48%、ダウ平均株価は 3.04%、ナスダック指数は 4.95%と下落しました(いずれも現地通貨ベース)。

前月末の連邦準備制度理事会(FRB)による緊急利下げ(0.75%)と、その後のFOMC(連邦公開市場委員会)における追加利下げ(0.5%)と、計 1.25%に達する大幅の利下げと米国財政政策の決定を受け、月初から月半ばまでは小高堅調に推移しました。しかし、1月のISM非製造業景況指数が大幅に悪化したことやラッカー総裁(リッチモンド地区連銀)が米国経済が「緩やかな景気後退に陥る可能性がある」と述べたことなどをきっかけに大幅に調整しました。

月半ば以降は、堅調な景気指標の発表や信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)について借り手救済策の発表、さらに連邦住宅抵当公社(フannie Mae)と連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)の資産買い取り上限規制を撤廃すると発表があり、住宅市場改善への期待から米国株式市場は一時反発しました。しかし、月末に向けて期待に応えるモノライン(金融保証会社)救済策が実施されなかったことやバーナンキFRB議長が議会証言の中で、一部金融機関が破綻する可能性を示唆したことなどから、再び下落して月を終えました。

## 【欧州株式市場】

欧州株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、MSCI欧州株価指数は 0.49%、FT100指数は+0.08%、仏CAC指数は 1.62%、独DAX指数は 1.51%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

月初は、堅調に推移しましたが、米国株式市場で1月のISM非製造業景況指数の大幅悪化などをきっかけに調整すると、欧州株式市場も下落基調に転じました。発表された大手金融機関や電気通信サービスセクターの決算内容は思わしくなかったものの、月半ば以降は、米国で堅調な景気指標の発表や信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)について借り手救済策の発表などの好材料から欧州株式市場も一時反発しました。

しかし、欧州の大手銀行各社の決算で損失が拡大したことが悪材料となり、月末にかけては、米国で期待に応えるモノライン(金融保証会社)救済策が実施されなかったことに加え、米国当局関係者が一部金融機関の破綻する可能性を示唆したことなどが嫌気され、下落して月を終えました。なお、ECB(欧州中央銀行)は、政策金利を据え置きました。

## 【国内債券市場】

国内債券市場は、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題に伴う信用収縮懸念や米国及び国内のファンダメンタルズの見通しを材料に、株式市場の動向をにらみながら、一進一退のレンジ内での動きとなりました。

月初は、1月米雇用統計の非農業部門雇用者数が予想を下振れしたことや、1月米ISM非製造業景況感指数が景気判断の分かれ目となる50を割り込んだこと等が、米国株式市場の低下をもたらす、債券が選好される要因となりました。しかし、その後は、米著名投資家がサブプライムローン問題により信用問題が取りざたされているモノライン(金融保証会社)の救済提案を行ったこと、1月米小売売上高の上振れや、国内10-12月期実質GDP成長率が前期比年率3.7%と大幅上振れしたことなどが、株式市場の戻りを誘い、債券も軟調地合いとなりました。

更に月後半に向けて、モノライン(金融保証会社)の救済策がまとまるとの期待感から、これを好感した株式市場の上昇が見られ、10年国債利回りは、1.5%まで上昇する動きとなりました。しかし、月末、国内1月鉱工業生産指数が大幅に悪化し、再び金利低下余地を探る展開となりました。それに加え、ドル安/円高の進行が国内輸出関連株の更なる下落を招き、債券選好につながり、1.4%を割り月末を迎えました。

## (参考指標)

		2008年1月末	2008年2月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1346.31 ポイント	1324.28 ポイント	-1.64%
	日経平均	13592.47 円	13603.02 円	0.08%
	新発10年国債	1.440 %	1.355 %	0.085低下
米国	NYダウ	12650.36 ドル	12266.39 ドル	-3.04%
	S&P500	1378.55 ポイント	1330.63 ポイント	-3.48%
	NASDAQ	2389.86 ポイント	2271.48 ポイント	-4.95%
	10年国債	3.593 %	3.509 %	0.084低下
欧州	FT100	5879.80 ポイント	5884.30 ポイント	0.08%
	CAC40	4869.79 ポイント	4790.66 ポイント	-1.62%
	DAX	6851.75 ポイント	6748.13 ポイント	-1.51%
	独10年国債	3.930 %	3.891 %	0.039低下
為替	米ドル/円レート	106.40 円	104.78 円	1.52%円高
	ユーロ/円レート	157.84 円	158.98 円	0.72%円安

\* 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利(日本)、ジェネリック米国利回り10年(米国)、ドイツ国債10年の利回り(欧州)を表示しております。

\* 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 特別勘定の資産内容について(2008年2月)

### 【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のINDEX」とは、弊社が変額保険「Global Mix」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。



日付	INDEX
07/03/31	1.009
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007
07/10/31	1.009
07/11/30	0.982
07/12/31	0.978
08/01/31	0.935
08/02/29	0.941

### 【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
0.58%	-5.17%	-6.77%	-3.43%	8.33%	-5.93%

注) 設定日である2000年8月1日を1.00としたパフォーマンスを示しています。

注) 騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。

注) 上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。

注) この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

### 【特別勘定資産の内訳】

項目	金額 (千円)	構成比 (%)
預貯金・コールローン	606,552	1.7
日本株式型投資信託 (アクサR)	3,583,929	9.9
日本株式型投資信託 (アクサR)	5,423,961	14.9
米国株式型投資信託(アクサR)	5,360,163	14.8
欧州株式型投資信託(アクサR)	3,614,695	10.0
日本債券型投資信託(アクサR)	17,200,013	47.4
その他	529,941	1.5
特別勘定合計	36,319,256	100.0

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っていません。

### 【保有契約高】

項目	件数 (件)	金額 (千円)
有期型	1,116	2,574,205
終身型	56,556	303,572,815
合計	57,672	306,147,021

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。

### 【特別勘定の解説】

当特別勘定は原則として、50%を安全資産での運用にしております。

積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の25%、欧米株式で25%の資産配分といたします。

リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

### 【今後の運用方針】

特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

(アクサ生命保険株式会社 ファンド・マネジメント部)



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 日本株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

**【運用方針】** わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】** TOPIX

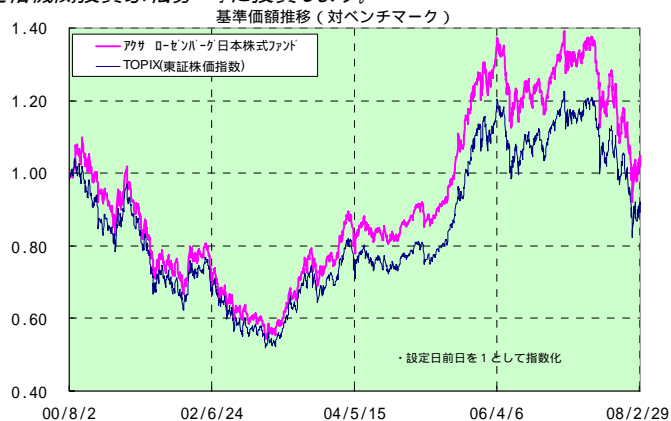
### 【運用状況】

当月は、ベンチマークであるTOPIXが 1.64%であったのに対し、当ファンドは、0.52%となり、+1.12%のアウトパフォームとなりました。  
当月の日本株式市場は、株式の売買が活発に行われた銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。  
業種別では、下落した不動産業、銀行業をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、上昇した卸売業を多めに保有していたことは、いずれもプラスへの寄与となりました。  
個別銘柄では、上昇した太平洋金属(5541)をベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した住友不動産(8830)やイビデン(4062)をベンチマーク比で少なめに保有していたことはプラスへの寄与となりました。

### 【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。  
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.5%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.9%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.2%
4	松下電器産業	電気機器	1.8%
5	三菱商事	卸売業	1.7%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.6%
7	日本電信電話	情報・通信業	1.6%
8	任天堂	その他製品	1.5%
9	キヤノン	電気機器	1.5%
10	新日本製鐵	鉄鋼	1.4%
合計			20.7%
組入銘柄数			413銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

## 日本バリュー株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

**【運用方針】** わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

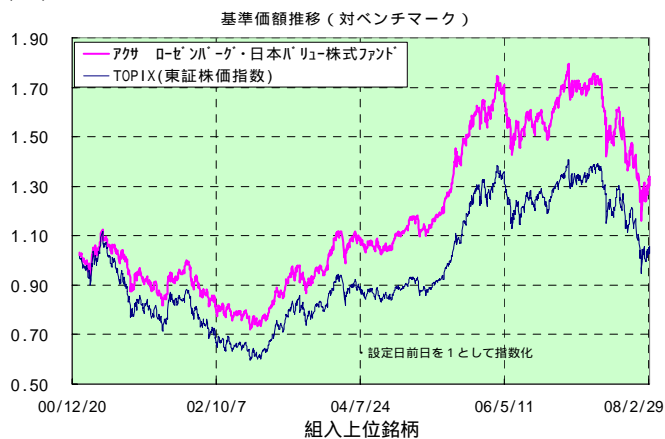
**【ベンチマーク】** TOPIX

当月はベンチマークであるTOPIXが 1.64%となったのに対し、当ファンドは+0.88%となり、+2.52%のアウトパフォームとなりました。  
当月の日本株式市場は、株式の売買が活発に行われた銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。  
業種別では、上昇した卸売業、石油・石炭製品をベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した不動産業を少なめに保有していたことは、いずれもプラスへの寄与となりました。  
個別銘柄では、上昇した三菱商事(8058)、国際石油開発帝石ホールディングス(1605)や、三菱重工業(7011)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスへの寄与となりました。

### 【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。  
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



	銘柄	業種	比率
1	三菱商事	卸売業	3.5%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.3%
3	松下電器産業	電気機器	3.2%
4	三井物産	卸売業	3.1%
5	日本電信電話	情報・通信業	2.9%
6	本田技研工業	輸送用機器	2.8%
7	ジェイ・エフ・イー・ホールディングス	鉄鋼	2.5%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.4%
9	国際石油開発帝石ホールディングス	鉱業	2.3%
10	ミレアホールディングス	保険業	2.3%
合計			28.3%
組入銘柄数			360銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

**欧州株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

**[運用方針]:** 幅広い投資対象(欧州約3,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

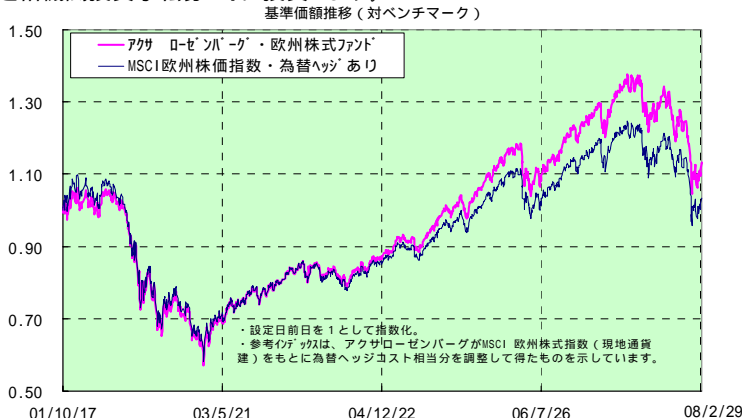
**[ベンチマーク]:** MSCI 欧州株式指数(為替ヘッジあり)

**[運用状況]**

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が+0.70%であったのに対し、当ファンドは+0.97%となり、+0.27%のアウトパフォーマンスとなりました。当月の欧州株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が上昇する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して多めに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、上昇した素材、エネルギーなどをベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した各種金融を少なめに保有していたことはいずれもプラスに寄与しました。

個別銘柄では、上昇した素材のANGLO AMERICAN PLC(アングロ・アメリカン、イギリス)、エネルギーのSTATOILHYDRO ASA(スタイルハイドロ、ノルウェー)や下落した各種金融のUBS AG-REG(スイス)をベンチマーク比で少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トタル SA	エネルギー	2.4%
2	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.4%
3	ネスレ	食品・飲料・タバコ	2.0%
4	BP PLC	エネルギー	1.8%
5	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	1.8%
6	ENI SPA	エネルギー	1.6%
7	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.6%
8	アングロ・アメリカン	素材	1.6%
9	ダイムラー AG	自動車・自動車部品	1.4%
10	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-B-SHS	エネルギー	1.3%
合計			17.9%
組入銘柄数			321銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

**米国株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

**[運用方針]:** 幅広い投資対象(米国約6,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

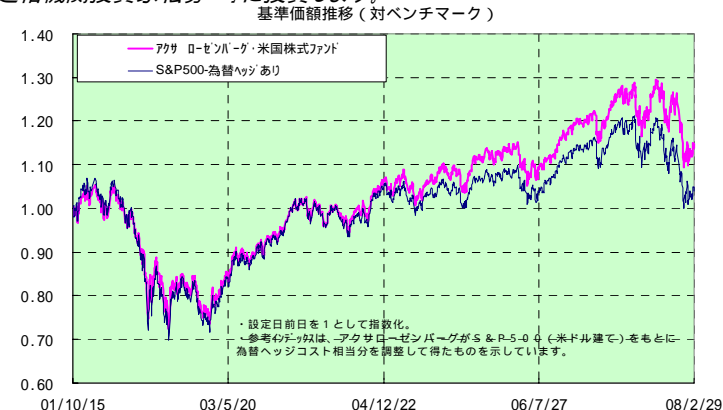
**[ベンチマーク]:** S & P 500(為替ヘッジあり)

**[運用状況]**

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が+0.68%であったのに対し、当ファンドは+1.42%となり、+0.74%アウトパフォーマンスしました。当月の米国株式市場は、金利の上昇懸念から、債務借入の大きい企業が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比べて少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、上昇したエネルギーをベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した銀行を少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。

個別銘柄では、上昇したエネルギーのDEVON ENERGY CORPORATION(デボン・エナジー・コーポレーション)、APACHE CORP(アパッチ)、CHESAPEAKE ENERGY CORP(チェサピーク・エナジー)などをベンチマークに比較して多めに保有していたことはプラスに寄与しました。



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	4.2%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.4%
3	シェブロン	エネルギー	2.0%
4	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	2.0%
5	ファイザー	医薬品・バイオテクノロジー	1.7%
6	IBM	テクノロジー製品・機器	1.7%
7	コノフィリップス	エネルギー	1.7%
8	AT&T	電気通信サービス	1.4%
9	ベライゾン・コミュニケーションズ	電気通信サービス	1.4%
10	シュルンベルジェ	エネルギー	1.3%
合計			19.8%
組入銘柄数			296銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

**[今後の運用方針]**

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。

割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

**日本債券ファンド(運用会社: アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

【運用方針】: 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

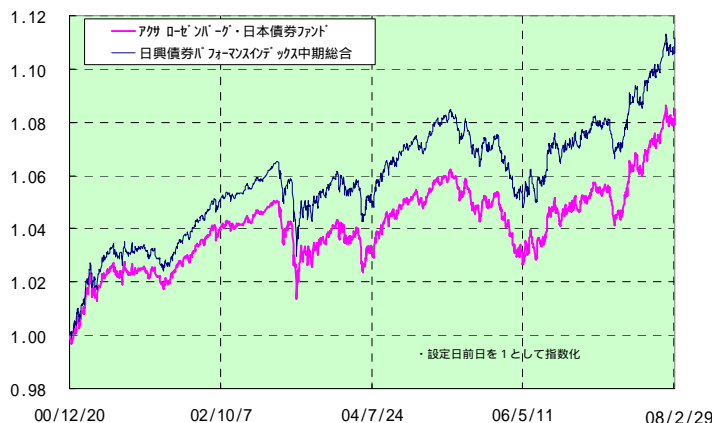
【ベンチマーク】: 日興債券パフォーマンス・インデックス中期総合

【運用状況】

当月の当ファンドの投資収益率は+0.32%(ベンチマークは+0.34%)となりました。

中長期的な観点では、景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきているといえるものの、消費関連指標に力強さは見られず、足もの指標が示すように日本経済の方向性の不透明感が高まっています。米国景気後退懸念の高まりを受けて、国内景気減速懸念も高まっており、更なる金利低下余地は限定的であるものの、金利が上昇する可能性は低いとの判断を維持しました。月初、イールドカーブ(利回り曲線)の更なるスティーピング(勾配化)は限定的であるとの見方から、イールドカーブのフラットニング(平坦化)ポジションを構築しました。また見通しに基づき、月を通してデュレーションの長期化のタイミングを探りました。これらの投資行動はパフォーマンスに対して小幅にプラス要因となりました。しかしながら、社債等の対国債利回り較差は引き続き急拡大したことから、社債等の保有がパフォーマンスへマイナス寄与となり、結果的には対ベンチマークで小幅マイナスとなりました。

基準価額推移(対ベンチマーク)



信託財産の構成

	組入比率	デュレーション
公社債	99.8%	4.37年
短期資産等*	0.2%	77.3年
合計	100.0%	4.53年

\*債券先物を含む

公社債の内訳

	組入比率	デュレーション
国債	83.5%	4.63年
地方債	0.0%	0.0年
特殊・財投債	1.9%	3.27年
金融債	0.5%	2.3年
社債等	13.9%	3.01年
コールローンその他*	0.2%	77.3年
合計	100.0%	4.53年

\*債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分**	構成比率
AAA	3.3%
AA	89.9%
A	6.2%
BBB	0.6%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

\*\* S&P格付を優先

【今後の運用方針】

中長期的な観点では、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移していると言えます。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確定要素が色濃く残り、日銀は以前よりも増して、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられ、金融政策の据え置きが続いています。米国の利下げを行うなど、依然として海外からもたらされる不確実性を強く意識しなければならぬ環境が継続しており、国内景気への配慮も必要となってくる状況だと言えます。当面は、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題の拡大や長期化、及び国内景気への影響を十分に配慮しながらの舵取りをいられるだけでなく、国内景気の閉塞感も出てきていることから、金利正常化を急ぐことは難しいと思われる。金融緩和期待の声も聞かれるなど、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高いことから、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視して行く方針です。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

**注意事項**

**変額保険の仕組み**  
 変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとじて変動する生命保険です。  
 \*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

**変額保険のリスクについて**  
**市場リスク**  
 特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

**信用リスク**  
 万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年)

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-350	1,000	-315	-5.93	-0.80
平成12年 9月 1日	1,000	-359	1,000	-323	-7.32	-1.01
平成12年 10月 1日	1,000	-335	1,000	-300	-4.67	-0.64
平成12年 11月 1日	1,000	-315	1,000	-281	-2.51	-0.35
平成12年 12月 1日	1,000	-292	1,000	-259	-0.02	0.00
平成13年 1月 1日	1,000	-272	1,000	-240	2.18	0.30
平成13年 2月 1日	1,000	-284	1,000	-251	0.32	0.05
平成13年 3月 1日	1,000	-247	1,000	-215	4.60	0.65
平成13年 4月 1日	1,000	-225	1,000	-194	6.95	0.98
平成13年 5月 1日	1,000	-249	1,000	-218	3.55	0.51
平成13年 6月 1日	1,000	-241	1,000	-210	4.18	0.61
平成13年 7月 1日	1,000	-226	1,000	-196	5.63	0.82
平成13年 8月 1日	1,000	-197	1,000	-168	8.74	1.28
平成13年 9月 1日	1,000	-156	1,000	-128	13.41	1.95
平成13年 10月 1日	1,000	-106	1,000	-79	19.21	2.78
平成13年 11月 1日	1,000	-122	1,000	-95	16.76	2.48
平成13年 12月 1日	1,000	-127	1,000	-100	15.69	2.36
平成14年 1月 1日	1,000	-127	1,000	-100	15.32	2.34
平成14年 2月 1日	1,000	-98	1,000	-71	18.48	2.83
平成14年 3月 1日	1,000	-105	1,000	-78	17.16	2.67
平成14年 4月 1日	1,000	-119	1,000	-92	15.02	2.39
平成14年 5月 1日	1,000	-111	1,000	-85	15.53	2.51
平成14年 6月 1日	1,000	-113	1,000	-87	14.86	2.44
平成14年 7月 1日	1,000	-73	1,000	-47	19.31	3.16
平成14年 8月 1日	1,000	-36	1,000	-10	23.45	3.85
平成14年 9月 1日	1,000	-32	1,000	-6	23.45	3.90
平成14年 10月 1日	1,000	-1	1,000	25	26.96	4.50
平成14年 11月 1日	1,000	2	1,000	28	26.94	4.57
平成14年 12月 1日	1,000	-11	1,000	14	24.74	4.30
平成15年 1月 1日	1,000	18	1,000	45	28.01	4.90
平成15年 2月 1日	1,000	46	1,000	74	31.07	5.47
平成15年 3月 1日	1,000	54	1,000	82	31.58	5.64



**アクサ生命保険株式会社**

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	59	1,000	87	31.74	5.77
平成15年 5月 1日	1,000	43	1,000	70	29.05	5.42
平成15年 6月 1日	1,000	29	1,000	56	26.84	5.13
平成15年 7月 1日	1,000	11	1,000	37	24.17	4.75
平成15年 8月 1日	1,000	1	1,000	28	22.59	4.54
平成15年 9月 1日	1,000	-5	1,000	20	21.24	4.37
平成15年 10月 1日	1,000	-6	1,000	19	20.70	4.35
平成15年 11月 1日	1,000	-16	1,000	9	19.05	4.11
平成15年 12月 1日	1,000	-11	1,000	14	19.24	4.23
平成16年 1月 1日	1,000	-20	1,000	4	17.62	3.97
平成16年 2月 1日	1,000	-31	1,000	-5	15.95	3.69
平成16年 3月 1日	1,000	-41	1,000	-16	14.31	3.40
平成16年 4月 1日	1,000	-53	1,000	-28	12.48	3.05
平成16年 5月 1日	1,000	-50	1,000	-25	12.43	3.10
平成16年 6月 1日	1,000	-38	1,000	-13	13.41	3.41
平成16年 7月 1日	1,000	-48	1,000	-23	11.88	3.11
平成16年 8月 1日	1,000	-28	1,000	-3	13.70	3.65
平成16年 9月 1日	1,000	-27	1,000	-1	13.48	3.68
平成16年 10月 1日	1,000	-25	1,000	0	13.30	3.72
平成16年 11月 1日	1,000	-19	1,000	6	13.54	3.88
平成16年 12月 1日	1,000	-28	1,000	-3	12.05	3.56
平成17年 1月 1日	1,000	-41	1,000	-16	10.18	3.11
平成17年 2月 1日	1,000	-39	1,000	-13	10.06	3.16
平成17年 3月 1日	1,000	-50	1,000	-25	8.33	2.70
平成17年 4月 1日	1,000	-48	1,000	-23	8.14	2.72
平成17年 5月 1日	1,000	-30	1,000	-5	9.78	3.35
平成17年 6月 1日	1,000	-39	1,000	-14	8.45	2.99
平成17年 7月 1日	1,000	-48	1,000	-23	6.97	2.56
平成17年 8月 1日	1,000	-57	1,000	-33	5.56	2.12
平成17年 9月 1日	1,000	-61	1,000	-36	4.78	1.88
平成17年 10月 1日	1,000	-89	1,000	-65	1.29	0.53
平成17年 11月 1日	1,000	-81	1,000	-56	1.85	0.79
平成17年 12月 1日	1,000	-101	1,000	-101	-0.79	-0.35
平成18年 1月 1日	1,000	-114	1,000	-114	-2.57	-1.20
平成18年 2月 1日	1,000	-124	1,000	-123	-3.93	-1.91



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター



契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-116	1,000	-115	-3.43	-1.73
平成18年 4月 1日	1,000	-121	1,000	-120	-4.29	-2.26
平成18年 5月 1日	1,000	-115	1,000	-115	-4.09	-2.25
平成18年 6月 1日	1,000	-81	1,000	-81	-0.81	-0.46
平成18年 7月 1日	1,000	-81	1,000	-81	-1.14	-0.69
平成18年 8月 1日	1,000	-78	1,000	-78	-1.16	-0.73
平成18年 9月 1日	1,000	-92	1,000	-115	-3.07	-2.06
平成18年 10月 1日	1,000	-90	1,000	-110	-3.13	-2.22
平成18年 11月 1日	1,000	-91	1,000	-109	-3.59	-2.71
平成18年 12月 1日	1,000	-88	1,000	-104	-3.72	-2.99
平成19年 1月 1日	1,000	-103	1,000	-116	-5.60	-4.82
平成19年 2月 1日	1,000	-109	1,000	-119	-6.59	-6.10
平成19年 3月 1日	1,000	-108	1,000	-115	-6.77	-6.77

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

- (2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成20年2月末までの運用実績を示したものです。  
 なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。
- (3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

